

## <目指せ！1等米比率90%以上！！>

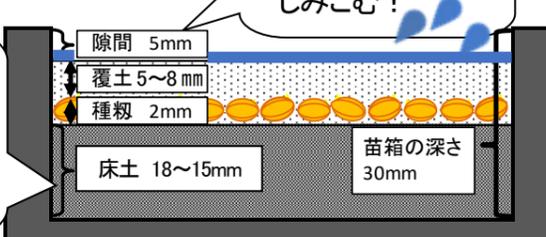
コシヒカリの播種は4月26日頃から！ 田植えは5月15日頃を中心に

### ☆育苗計画の目安 ~育苗日数(播種から田植日まで)は19日間以内を目安に

消毒	浸種開始	播種	田植え	(育苗日数)	出穂期
4/7(金)	4/8(土)	4/19(水)	5/10(水)	(21日)	8/1頃
4/16(日)	4/17(月)	4/26(水)	5/15(月)	(19日)	8/4頃
4/25(火)	4/26(水)	5/3(水)	5/20(土)	(17日)	8/7頃

育苗日数が長くなり、老化苗を移植すると初期の分けつが減少し、収量に影響します。  
育苗期間が長くなり過ぎないように注意しましょう！

### ☆育苗のスケジュールと作業内容

月日	作業	温度管理	作業管理のポイント																		
4/16	比重選 種子消毒	水温 10~15°C を確保	<p>①比重選で種籾を厳選 ・病気や発芽不揃いをしっかり予防する。</p> <p>②種子消毒を徹底し、病害の発生を予防 (必ず化学農薬で消毒) ・モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬する。(水温10~15°Cを維持！) ・消毒中は、種籾袋を2~3回上下に動かし、種子を完全に浸漬する。 ・消毒液の使用は1回限りとし、繰り返し使用しない。</p>																		
4/17	浸種		<p>③浸種は積算温度を十分に確保 ~水温×日数=積算温度100~120°C程度が目安~ ・催芽を揃えるため水温は10~15°Cとし、籾容量の2倍の水に浸漬する(浸種を開始した初日の水温確保(12~13°C)が重要)。 ・水交換(2日に1回)を行い、酸素不足を防ぐ。 ・浸種期間の後半は、必ず籾を確認し、芽が動いていたら浸種を終える。</p>																		
4/25	催芽	育苗器温度 28~30°C で 20~24時間	<p>④芽が伸び過ぎないように、こまめにチェック ・催芽を揃えるため、1日2~3回袋を反転させる。 ・均一に播種するため、種籾の水切り(脱水)は十分に行う。(籾が手に付かない程度にまで陰干しを行う。)</p>																		
4/26	播種 出芽	育苗器温度 30°C で2~3日	<p>⑤播種は、うす播き(乾籾120g/箱)が基本</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <p>いなほ床土・キセキ培土ライト・ホーネス培土 床土:18mm 覆土:5mm</p> <p>いなほ軽量培土 床土:15mm 覆土:8mm</p> <p>乾籾 120g</p> </div>  </div> <p>・培土の充填深度は床土と覆土あわせて25mm程度とする。 育苗箱上部との隙間(5mm)により、培土への吸水量が増加し、乾きにくい。</p>																		
4/29	搬出 緑化	ハウス内温度 昼:25°C以下 夜:10°C以上	<p>⑥育苗器の温度は30°Cが適温~こまめに温度や出芽状況をチェック~ ・事前にサーモスタットの温度計を確認する。</p> <p>⑦芽の長さが1cmに揃ったら搬出 ・搬出時には必ずかん水する！ ・原則、昼間は搬出直後から換気を行う。 ・緑化後、速やかに被覆資材をはずす。</p>																		
5/1	硬化		<p>⑧ハウス内の温度が25°C以上にならないよう換気を徹底 かん水は朝にたっぷり！日中は床土の乾きに応じて！ ・荒天でない場合は、夜間もハウスを開け換気を行う！</p>																		
5/15	田植え		<p>○育苗期間中の病害対策</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象病害</th> <th>使用薬剤名</th> <th>希釈倍率</th> <th>散布量</th> <th>防除時期</th> <th>使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>白カビ、青カビ</td> <td>ダコレート水和剤</td> <td>500倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>播種14日後まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>ムレ苗、苗立枯病</td> <td>ナエファインフロアブル</td> <td>1000倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>播種時から緑化期</td> <td>2回以内</td> </tr> </tbody> </table>	対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数	白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内	ムレ苗、苗立枯病	ナエファインフロアブル	1000倍	500cc/箱	播種時から緑化期	2回以内
対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数																
白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内																
ムレ苗、苗立枯病	ナエファインフロアブル	1000倍	500cc/箱	播種時から緑化期	2回以内																

○比重選液の作り方の目安

種籾	比重	硫安 (水10Lに)
うるち	1.13	2.5kg
もち	1.08	1.5kg



※早生・中生品種の浸種の日数

水温	浸種日数
10°C	10~12日間
15°C	7~8日間

○催芽の目安  
ハト胸~2mmまで

隙間を作ること  
で、水がムラなく  
しみこむ！



※ハウスの強風対策は  
万全に！  
強風が予想される場合は、予め育苗  
ハウスを点検し、必要に応じて補強しま  
しょう！

育苗  
19  
日間

# 春の土づくり

## ～いざ土づくり！ 美味しい富山を届けよう！～

高温や多雨などの気象変動に打ち勝つ米づくりのためには、強い稲体づくりが大切であり、その土台となる「根」を育てる「土づくり」が重要です。

土づくり資材や有機物の施用、深耕による「春の土づくり」で、地力の向上に努めましょう。

### ☆土づくり資材の施用

- ・ケイ酸は稲の茎葉を丈夫にし、葉を直立させる効果があるほか、病害虫に対する抵抗性を高めるなど、収量・品質の向上に効果の高い成分です。また、近年、発生が増えているごま葉枯病は、ケイ酸分の他、カリ、鉄分含量などの低下により発生が増加します。
- ・腐植が少ない砂質や砂壤土等のほ場では、**発酵鶏ふんなどの有機物を積極的に施用**し、地力の維持や向上（カリ等の補給効果有り）に努めましょう。
- ・**土づくり資材の施用は継続**することで効果が現れます。**昨年の秋に施用していない場合は、耕起前に土づくり資材を確実に施用**しましょう（春施用）（表1）。

表1 主な土づくり資材の施用の目安

資材名	施用量 (10a 当たり)	特性等
鶏果良好	60～100kg	ケイ酸、アルカリ分、遅効性カリ、リン酸、苦土などが一度に散布できます。
シンキョーライトP	60kg	含有成分のゼオライトは保肥力を高めます。根張りを良くし、安定収量と品質向上につながります。
スーパーけいさん鉄	60～100kg	ケイ酸のほか、鉄分を多く含んだ資材で、アルカリ分も高く、土壌の酸度矯正につながります。ごま葉枯病が多発するなど、鉄不足のほ場に適しています。
発酵鶏ふん	(春施用) 75～100kg	腐植含量を高め、カリ等も補給できます。

※発酵鶏ふんを春に施用する場合は、基肥を窒素成分で1～2kg/10a 程度減肥する。

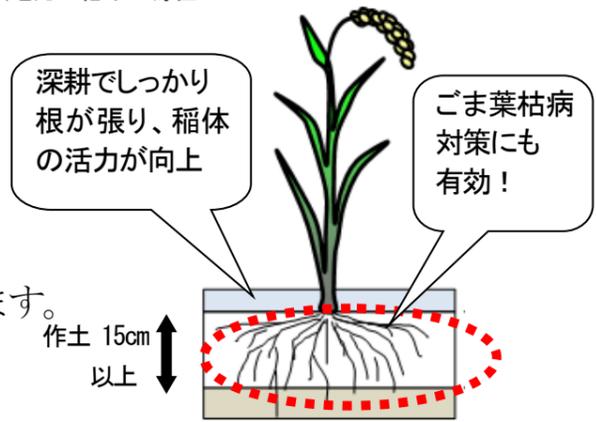
(例) Jコートコシヒカリ1号（窒素成分21%）  
40kg/10a 施用の場合、30～35kg/10a 程度に減肥する。



図 ごま葉枯病の病斑  
(地力の低下が原因)

### ☆深耕の実施

- ・深耕によって作土層を確保すると、根圏が広がり根が十分に伸長します。深く伸びた根は収穫まで稲の活力を維持し、収量・品質の向上につながります。
- ・耕起の際は、トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、**作土の深さ20cmを目標に、15cm以上の確保**を目指しましょう。



## 令和5年 春の農作業安全確認運動

### 3月1日～5月31日

### 「徹底しよう！ 農業機械の転落・転倒対策」

春の農繁期は農作業事故が発生しやすい季節です。農場や用水路の危険箇所の把握・改善や余裕をもった作業計画など、事故を未然に防止する対策を徹底しましょう。



**トラクター運転時はシートベルト装着!!**

※近年、全国でトラクターの転落・転倒事故が多発しています。

★富山市農協ホームページで営農情報の提供を行っています★  
<http://www.ja-toyamashi.or.jp/jouhou/> こちらで検索！

JA 富山市 営農情報 **検索**